

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	2	名称	市街地整備の推進			
主担当部	総合政策部		主担当課	八木駅周辺整備課		部長名	福西 克行
関係部	総合政策部、生活安全部		関係課	地域創造課、生活交通課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	人口減少社会への対応や環境に配慮した市街地整備を推進することで、快適で利便性の高い生活を送ることができる市街地を形成すること。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	<ul style="list-style-type: none"> 八木駅周辺においては、中南和の玄関口としてふさわしい市街地景観や賑わいのある都市空間、市民の利便性が求められている。 医大周辺地区は、県内唯一である医科大学の教育・研究部門の移転および附属病院の再整備を契機として、低炭素で先進的なまちづくりが求められている。 	市街地整備を取り巻く環境は、住民ニーズの多様化により住民の合意形成が困難になるなど、厳しい状況である。今後、市街地整備を進めていくには、限られた財政状況の中、地域住民と行政が協働し、また、民間活用を視野に入れたまちづくりを進めていくことが重要である。
これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> 八木駅南市有地活用については、事業契約に基づき施設整備業務のうち、基本設計及び実施設計業務を行った。 医大新キャンパス予定地に隣接した区域において、産学官連携による土地利用可能性調査を実施した。 	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	
指標の推移	施策指標① (成果指標)	38	60	—	65	70	
	施策指標② (成果指標)						
	施策指標③ (成果指標)						
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		28,720	101,897	38,791	77,835	
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	0	0	1,987	8,000	
	(a) - (b) = 一般財源		28,720	101,897	36,804	69,835	
	正職員	従事者数 (単位:人)	8.30	8.95	8.95	10.95	
		人件費(c)	53,950	51,937	51,937	63,543	
トータルコスト (a) + (c)		82,670	153,834	90,728	141,378		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	バリアフリーを推進するため協議会を開催し、特定事業計画の推進に向け取り組んでいるが、関係機関との調整等に時間を要するため達成度は低くなる。				
	市政全般に対する貢献度かどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者・障がい者等を含む誰もが、安心かつ安全に移動や施設の利用ができるようなバリアフリー化を計画的に進め、中南和の玄関口として質の高い生活を送るためのまちづくりに貢献することができる。				

6. 施策の課題

この施策の課題	市街地整備を取り巻く環境は、厳しい状況である。今後、住民のまちづくりに対する参画意識の向上により、官民一体となったまちづくりの推進が重要となる。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	中長期的には、医大周辺地区の整備による先進的なまちづくり、また、八木駅周辺地区のまちづくり事業等による景観に配慮した土地の高度利用化も意識したコンパクトでスマートな市街地整備を推進していく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	<ul style="list-style-type: none"> ・八木駅周辺地区については、低炭素で持続可能なコンパクトシティ、賑わいの創出等のまちづくりを検討する。 ・医大周辺地区については、附属病院や医大新キャンパスの特性を生かし、「健康」「医療」「環境」「省エネ」に配慮した先進的なまちづくりを検討する。 ・バリアフリー特定事業計画推進事業については、ハード事業(特定事業計画)の推進だけではなく、定期的にバリアフリー教室等を開催し、こころのバリアフリーの推進を図る。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH27決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)	
1	地域創造課	奈良県、医大及び橿原市等が連携し近年の状況変化を踏まえた上で、医大周辺の新たな位置づけ・期待される役割やまちづくりの潮流を取り込み、低炭素なまちづくりも併せ、本市の地域資源を活用した「奈良県立医科大学を中心としたまちづくり」をすすめるための検討を行う。	1	拡大する	a	拡大する	B
	奈良県立医科大学及びその周辺整備事業 (ソフト(任意))		3,261 (千円)				
2	八木駅周辺整備課	大和八木駅周辺地区において、市民の幅広い意見を聴取し、公共施設等(駅前広場、道路及び駐車・駐輪施設)の再整備など事業化方針の判断に向けた課題を洗い出し、事業推進のための方策を整理し、各個別の整備事業を行う。本庁舎の整備については、新分庁舎が開業する平成30年度までに本庁舎の利用・整備手法を検討し、本庁舎南側の民有地の取得に向けて取組んで行く。	1	継続する	a	継続する	
	八木駅周辺整備事業(大和八木駅周辺地区まちづくり) (ハード)		10,177 (千円)				
3	八木駅周辺整備課	八木駅南側の市有地活用について、市場調査結果等を踏まえ、複合施設への導入機能と規模を整理し、民間活力を導入したPFI事業等の手法を用いて、宿泊施設、庁舎、商業施設等の設計・建築・維持管理運営を行う。	1	継続する	a	継続する	
	八木駅周辺整備事業(八木駅南市有地活用) (ハード)		25,312 (千円)				
4	生活交通課(都市政策課・計画景観課)	鉄道駅におけるバリア解消により、移動円滑化を推進する。平成22年度に作成した特定事業計画に基づきバリアフリー化に向けた事業の進捗管理、協議・調整、各種報告、事後評価を行う。また、バリアフリー化の重要性や高齢者・障がい者等に対する理解を深め、行動につなげる「こころのバリアフリー」を推進する。	2	現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	バリアフリー化推進事業 (ソフト(任意))		41 (千円)				

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 5月 31日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	奈良県立医科大学及びその周辺整備事業								
	担当部名	総合政策部	担当課名	地域創造課	課長名	西岡 幹雄				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	2	市街地整備の推進						
	予算事業名	地域活性化推進事業								
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度		
対象	市民			事業の内 容説明	奈良県、医大及び橿原市等が連携し近年の状況変化を踏まえた上で、医大周辺の新たな位置づけ・期待される役割やまちづくりの潮流を取り込み、低炭素なまちづくりも併せ、本市の地域資源を活用した「奈良県立医科大学を中心としたまちづくり」をすすめるための検討を行う。					
事業の 目的	奈良県立医科大学(以下「医大」)の教育部門の移転整備と併せて医大附属病院を高度医療拠点として再整備するための検討が進められていることから、奈良県、医大及び橿原市が共有できる新しいまちづくりを目指し、「快適な生活を育むまち」の実現を目的とする。									
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
		説明	医大周辺地区は、都市計画マスタープランにおける地域別まちづくり方針において都市シビック拠点地区と位置づけられており、中南和の拠点としてふさわしい良好な都市機能の形成を推進するには、市が積極的に関与しなければならない。							
	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	市の重要施策の1つとして位置づけられ、奈良県・医大及び橿原市の連携で進めるべき大きな取組であるとともに、奈良県知事が医大の教育部門の移転を既に公表しており、取りやめた場合の影響は、市だけでなく県も含めて大きい。							
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)		
	成果指標			実績	計画	実績	見込み	見込み		
	活動指標①	PT会議開催回数 回		4	6	4	6	6		
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			17,659	83,954	3,261	18,917		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			17,659	83,954	3,261	18,917		
		正職員	従事者数(単位:人)			1.20	1.20	1.25		1.20
			人件費(c)			7,800	6,964	7,254		6,964
	トータルコスト(a)+(c)			25,459	90,918	10,515	25,881			
	単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	奈良県、医大及び橿原市がともに連携し成立する事業であることから、定期的に調整会議を開催し、事業進捗状況等の情報共有を図りながら取り組んでいる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	健康で快適な生活を育むまちを実現するため、健康・医療・学術研究・観光・歴史・環境・省エネなど多岐に渡るキーワードとした新しいまちづくりであり、他の関連部局との連携を図りながら取り組む事業であることから、上位施策への貢献度は高いと考えられる。							
評価	効率性評価		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	事業実現に至るまでの諸問題を解決していくためには相当の期間を要するが、多様な連携、また事業実施の際は適切な事業スキームを選定することでコストの縮減を図るものである。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		この事業については、多岐に渡る調整が必要であり、その調整を円滑に進めるために検討チームを立ち上げる必要がある。その協議検討をスムーズに進めることにより、先駆的で環境に配慮した医職住の整った新しいまちづくりが実現され、快適で健やかな生活を育む真に住みよい生活を提供することにつながる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A
説明		奈良県、医大及び橿原市が連携しながら協議検討を進め、また市の関連する担当課とも連携を図りながら、奈良県、医大及び橿原市が共有できる基本構想を作成し、新しいまちづくりの実現に向けた基本計画を作成する。								

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

PLAN 計画	事務事業名	八木駅周辺整備事業(大和八木駅周辺地区まちづくり)						
	担当部名	総合政策部	担当課名	八木駅周辺整備課	課長名	小林 修作		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち				
		施策	2	市街地整備の推進				
	予算事業名	八木駅周辺整備費 市街地整備事業費						
	事業の開始年度	平成	25	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	事業の内容説明(全体計画) 大和八木駅周辺地区において、市民の幅広い意見を聴取し、公共施設等(駅前広場、道路及び駐車・駐輪施設)の再整備など事業化方針の判断に向けた課題を洗い出し、事業推進のための方策を整理し、各個別の整備事業を行う。本庁舎の整備については、新庁舎が開業する平成30年度までに本庁舎の利用・整備手法を検討し、本庁舎南側の民有地の取得に向けて取組んで行く。							
事業の目的	奈良県と締結した「まちづくりに関する包括協定」に基づき、大和八木駅周辺地区にエリアを拡大し、現況の調査・分析、課題の把握、基本的方向性・実現化方策等の検討を行い、既存の公共施設を含めた大和八木駅周辺地区において、駅の南北が連携した中南和の広域拠点にふさわしい市街地環境を形成し、地域の活性化を図る。							
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明						
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等	26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標							
	活動指標①							
	活動指標②							
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出(直接事業費)(a)		4,889	7,065	10,177	19,683	
		歳入(b)	受益者負担額					
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			1,987	8,000	
		(a) - (b) = 一般財源		4,889	7,065	8,190	11,683	
		正職員	従事者数(単位:人)	0.35	2.60	2.60	4.30	
人件費(c)			2,275	15,088	15,088	24,953		
トータルコスト(a)+(c)		7,164	22,153	25,265	44,636			
単位当たりコスト	計算式等 ()/()							
備考(これまでの実績等)	平成26年9月に契約した、八木駅北側地区まちづくり事業化検討調査業務委託を終了。その後、奈良県と締結した「まちづくりに関する包括協定」に基づき、大和八木駅周辺地区にエリアを拡大し、大和八木駅周辺地区整備計画策定業務を進めている。							

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	大和八木駅周辺地区整備計画策定業務については、奈良県との包括協定によりエリア拡大したことで、新たにコンセプトや将来ビジョンを示した。今後、市民の幅広い意見を聴取するためにワークショップや市民アンケートを行い、大和八木駅周辺地区まちづくり基本構想及び基本計画の策定を行う。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度
修正行動			4 完了する				
			説明	大和八木駅周辺地区整備計画策定業務(事業費19,008,000円税込)において、大和八木駅周辺地区まちづくり基本構想及び基本計画の策定を行い、各個別事業での整備を目指す。			

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年5月30日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	八木駅周辺整備事業(八木駅南市有地活用)								
	担当部名	総合政策部	担当課名	八木駅周辺整備課	課長名	小林 修作				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	2	市街地整備の推進						
	予算事業名	八木駅周辺整備費								
	事業の開始年度	平成	25	年度	事業の終了予定年度	平成	49	年度		
	対象									
	事業の 目的	八木駅周辺において、市の玄関口としての整備を目指し、民間の活力を積極的に取り込むとともに、八木駅南側の市有地活用により、さらなる賑わいのあるまちづくりを行う。		事業の内容説明(全体計画)	八木駅南側の市有地活用について、市場調査結果等を踏まえ、複合施設への導入機能と規模を整理し、民間活力を導入したPFI事業等の手法を用いて、宿泊施設、庁舎、商業施設等の設計・建築・維持管理運営を行う。					
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明								
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度 (総計目標)	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標①									
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			6,022	8,263	25,312	35,024		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			6,022	8,263	25,312	35,024		
		正職員	従事者数(単位:人)			6.50	4.90	4.90	5.20	
人件費(c)			42,250	28,435	28,435	30,176				
トータルコスト(a)+(c)			48,272	36,698	53,747	65,200				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)	八木駅南市有地活用に向け、平成27年3月に締結した事業契約をもとに、平成27年度は複合施設整備業務のうち、基本設計・実施設計を行い、それに伴うモニタリング業務を実施した。									

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない			
			説明	市有地活用事業において、平成27年3月に事業契約を締結し、平成27年度は複合施設整備業務のうち基本設計・実施設計を行った。今後、平成28、29年度にかけて建設工事を行い、平成30年4月の供用開始を目指す。					
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
			説明						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。								
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度			
修正行動		説明	4 完了する	八木駅南市有地活用事業について、平成27年3月事業契約の締結(9,655,693,160円税込)、平成30年4月供用開始から平成50年3月まで複合施設の維持管理・運営を行い事業継続を行う。					

事務事業評価表(平成27年度実施事業対象)

(作成日:平成28年 6月 3日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	バリアフリー化推進事業								
	担当部名	生活安全部	担当課名	生活交通課(都市政策課・計画景觀課)	課長名	森 昭一				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち						
		施策	2	市街地整備の推進						
	予算事業名	交通安全対策事業 都市計画総務管理費								
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	事業実施者、橿原市移動等円滑化基本構想で定めた重点整備地区(近鉄大和八木駅・八木西口駅・JR畝傍駅周辺地区)			事業の内容説明	鉄道駅におけるバリア解消により、移動円滑化を推進する。平成22年度に作成した特定事業計画に基づきバリアフリー化に向けた事業の進捗管理、協議・調整、各種報告、事後評価を行う。また、バリアフリー化の重要性や高齢者・障がい者等に対する理解を深め、行動につなげる「こころのバリアフリー」を推進する。				
	事業の目的	高齢者・障がい者等を含む誰もが、利用する施設を安心かつ安全に行なえるようバリアフリー化を計画的に進め、中南和の玄関口としてふさわしい地区を実現することを目的とする。								
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
			説明	公共性の高い地域からバリアフリー化を進めるため。						
市の関与の必要性を評価してください		やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	効率的な事業の進捗管理等を行うことができないので、特定事業計画の推進に大きな影響を及ぼす。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			26年度	27年度		28年度	29年度(総計目標)	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	特定事業計画の進捗率(%)			38	60	-	65	70	
	活動指標①	協議会開催回数(回)			1	1	1	1	1	
	活動指標②	バリアフリー教室等開催回数(回)			1	1	1	1	1	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			150	2,615	41	4,211		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)							
		(a) - (b) = 一般財源			150	2,615	41	4,211		
正職員		従事者数(単位:人)			0.25	0.25	0.20	0.25		
		人件費(c)			1,625	1,451	1,161	1,451		
トータルコスト(a)+(c)			1,775	4,066	1,202	5,662				
単位当たりコスト	計算式等 ()/()									
備考(これまでの実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	生活交通の手段としてだけでなく、観光にも利用して貰える提案をし続けており、その周知が定着しつつある。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	高齢者や障がい者等を含む誰もが、移動や施設の利用を安心かつ安全におこなえるようバリアフリー化を計画的に進め、中南和の玄関口としてふさわしい地区を実現するために、この事業の占める割合は大きいと考えられる。							
評価	効率性評価		1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	最小の経費で事業を行なっているので、コストを低減することは難しい。なお、将来的に協議会の規模縮小が図られた場合には低減できる可能性がある。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		ハード事業(特定事業計画)の推進だけでなく、定期的にバリアフリー教室等を開催しソフト事業(こころのバリアフリー)の促進を図ることにより、一層効果的なバリアフリー化の実現が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		D	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 特定事業計画の進捗管理等については、継続して実施する。							